



総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

地域人材ネット

全国姉妹おもちゃ美術館コンソーシアム構想

多田千尋 (ただちひろ)

NPO法人芸術と遊び創造協会 理事長



○ 登録者情報

所在地

東京都新宿区

略歴

明治大学法学部卒。現在は、芸術教育研究所所長、東京おもちゃ美術館館長。早稲田大学では「福祉文化論」、お茶の水女子大学では「コミュニティ保育資源の活用」を2017年度まで担当。

平成22年より林野庁の補助事業を受託し、木育の普及啓蒙を進め、全国100ヶ所に子育てサロン「赤ちゃん木育ひろば」を開設。2013年から全国26市町村、8企業をウッドスタート宣言させ「木育」を全国的な国民運動に押し上げる。2013年、2014年は東京都で、2015年には長野県で「木育サミット」を開催し全国の注目を集める。

近年は東京都との共催で、「第1回森の恵みの保育環境セミナー」を開催し、幼稚園・保育園に対し、ウッドスタート宣言園を呼びかける。さらに「保育ナチュラルist養成講座」「木育インストラクター養成講座」なども通して、幼児教育、保育の現場において乳幼児の木育を提唱する。

- ・ 東京おもちゃ美術館の木を大切にする試みが評価され、林野庁長官から感謝状
- ・ 近年のウッドスタート宣言のシステムの構築が評価され第1回ウッドデザイン賞の林野庁長官賞
- ・ 年間10万人の入館者を集める経営手法が評価され、経済専門誌からは日本の社会起業家30人の一人に選出。
- ・ その他、2014年度「ファンドレイジング大賞」「クラウドファンディング大賞をそれぞれ受賞。
- ・ 2018年2月ウッドスタート宣言の仕組みが評価され、文部科学大臣賞を受賞

著書・論文等

『世界の玩具事典』(岩崎美術社)『リハビリ手遊び』(婦人生活社)、『ボケないレッスン』(晶文社出版)、『赤ちゃんと楽しむ手作りおもちゃ』(池田書店)、『遊びが育てる世代間交流』(黎明書房)、『赤ちゃんからはじめる木のある暮らし』(幻冬舎エデュケーション)

○ 全国姉妹おもちゃ美術館コンソーシアム構想

取組の内容



木育推進センターであるおもちゃ美術館を作りの推進。

2014年に沖縄県国頭村の「やんばる森のおもちゃ美術館」、2018年には長門市(山口県)と由利本荘市(秋田県)でオープンし、全国に10館程度になる。

● 姉妹おもちゃ美術館づくりは4点セットと決まっています。

まず、おもちゃ美術館というハコを作る。ここが一番大事なのですが、コンテンツや内装などのデザインを考え抜いていきます。2つ目が、おもちゃ学芸員養成講座、すなわち強力なボランティア部隊の育成です。1館当たり100名の登録が目標です。3つ目が宣伝・PR。東京おもちゃ美術館のアクセス数の膨大なホームページに姉妹美術館のアイコンをつけます。沖縄で実行したクラウドファンディングもそうです。普通は資金集めオンリーですが、われわれはPRのためにも実施しました。

最後が、運営組織づくり。秋田も山口も、地元の人たちと協力しながら現地にNPOを設立しました。そうすることで、地元の人たちが当事者意識をもっておもちゃ美術館を運営する仕組みができます。

この4つを、東京おもちゃ美術館が一括してやるのが肝になります。立ち上げ後も、10館が手をつなぎながら共存共栄します。10館できるということは、ミュージアムショップも10店できるということ。そこがひとつのマーケットになります。ウッドスタート宣言をした市町村で作られた地産地消のおもちゃが、ミュージアムショップでも売られていくことで、地場を育てる流れができます。そうなるためのさまざまな課題解決を、会合を開いて話し合っています。

● 地域資源を活かきる、おもちゃ美術館のマーケティング戦略

私たちは立地から選ぶということを一切やっていないんですね。ストーリーづくりさえ失敗しなければ、ちょっとやそつと不便なところでも人は行きますので、その地域に熱い人がいるかどうかの方が重要です。

心揺さぶるようなストーリーがないといけません。例えば国頭村では、琉球時代に林業地域であった歴史や、やんばるの森の固有種ヤンバルクイナからヒントを得ました。長門市や由利本荘市では、それぞれ観光船とローカル線を利用することで美術館構想をつくりました(詳細は特集2参照)。おもちゃ美術館の誕生をきっかけに、採算の取れていない船や電車をリニューアルすることで、それらが地域資源として生きてくるわけです。

地域には、本当にいろんな資源があるんです。それに気付けていないだけ。私たちが現地の方々と話していると、ヒントをいっぱいいただけます。「多田さん、蔡(さい)温(おん)松(まつ)って知ってますか」とか。現地の方々がいろんなことを教えてくれることがきっかけになって、ストーリーづくりがスタートするわけです。

地域資源を負の遺産ではなく、プラスのベクトルでとらえられると、地域がだんだん自信をつけていって、地域のためという当事者意識を持つという連鎖反応を、木育は仕掛けやすいと思います。

そして今、日本国民がもっとも地域資源として思っていないのが山や森林です。ここを木育とウッドスタート宣言であおっていくんです。森林を地域資源だと思えたらすごいですよね。もう灯油買うの止めようという村や町が続出したっていいですよね。その方が地域は豊かになるんじゃないですかね。

話をまとめると、立地ではなくて、どのような地域資源があるかと、その土地に熱い人たちがいるかという人的資源にこだわりますね。



長門おもちゃ美術館(山口県長門市)

ひとことPR

灯台下暗しという言葉があるように、どのような地域資源、人的資源、それに文化資源があろうとも、現地の方々では気が付かない見落としの宝物は決して少なくない。その資源をいかに発掘するか、そして多くの方々の心を揺さぶるようなストーリーを組み立てられるかが最大のポイントとなる。

○ 参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

○	1	地域経営改革	7	まちなか再生
○	2	地場産品発掘・ブランド化	8	若者自立支援
○	3	少子化対策	9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進	10	環境保全
	5	定住促進	11	その他
○	6	観光振興・交流		

関連ホームページ

東京おもちゃ美術館	http://goodtoy.org/ttm/
NPO法人芸術と遊び創造協会	http://goodtoy.org/
木育ラボ	http://mokuikulabo.info/

戻る